



ナマズの知恵袋

平成17(2005)年 9月1日 発行
編集・発行 滋賀県立図書館

あなたも調べてみたくなる「滋賀」

「滋賀」に長年暮らしている方、「滋賀」に移り住んで間もない方、ときどき「滋賀」に立ち寄る方……。皆さんと「滋賀」とのかかわりは様々でしょう。参考資料室の滋賀資料コーナーには「滋賀」を知るためのあらゆる分野の資料が、古いものから新しいものまで、豊富にそろっています。来年は、NHK大河ドラマ「功名が辻」の放映で滋賀が注目されそうな予感。今回は「滋賀」の特徴を知るために役立つ資料をいくつか紹介します。

「滋賀」を調べるなら、まずはこれ。

『滋賀県百科事典』滋賀県百科事典刊行会編 大和書房 1984年 [S-0300-84]

疑問があれば、まずはこれ。政治・社会・産業・経済・文化・教育・地理・民俗・地学・動植物など滋賀のすべてを網羅する6,000あまりの項目を集大成した、本格的な地域百科事典。中高生から県民一般まで広く活用できるように編纂され、ことばの表現がわかりやすい。

『角川日本地名大辞典 25 滋賀県』角川書店 1979年 [S-2900-79]

古代～昭和期の歴史的行政地名、自然地名、人文地名、その他の地名を対象としている。構成は、総説、地名編(50音順)、地誌編(地域別)、資料編の4部門。資料編では、滋賀県行政変遷年表、市町村沿革図、考古遺跡分布図、交通図などを掲載。

『滋賀県の地名』平凡社 1991年 [S-2900-91]

古代から現代の各時代の行政地名・自然地名だけでなく、歴史的建造物や遺構も広い意味での地名として収録。それぞれの地名にまつわる歴史や風土、由来を調べることができる。必要に応じて現在の地名を併記している。項目の配列は地域ごとで、大見出し項目(現在の郡・市・区名)と中見出し項目(現在の町・村名、大・中都市の地域区分名、中世・近世の都市名)、さらに地域ごとの小項目、となっている。

数字でみる「滋賀」

『滋賀県なんでも一番 第9版』滋賀県企画県民部統計課編 [S-CN00-02]

「日本初の」「日本唯一の」「日本最大の」「日本3大のひとつ」といったように、全国比較で滋賀県が上位を占める事柄について、「ひと」「暮らし」「街のようす」「経済活動」「自然」「行政」の項目ごとにまとめたもの。滋賀県以外の上位3位の都道府県名と、全国平均、資料出所もあわせて記載。数年ごとに最新版を発行。

『滋賀県統計書 平成15年度』滋賀県政策調整部統計課 [SB-AN00-03]

12章で構成される滋賀の総合データ集。毎年度発行。

『滋賀のしおり 2005』滋賀県政策調整部統計課編 [S-AN00-05]

『図でみる滋賀県の姿 2004』滋賀県政策調整部統計課編 [SB-AN00-04]

前者は毎年発行、後者は数年毎発行。県内の市町別人口といった主要な統計をはじめ、グラフ・地図、県内の見どころなどがコンパクトにまとめられている。

滋賀県の姿をおおまかにつかみたいとき、県外の方に滋賀県の特徴を説明する際には便利な資料。

～ ナマズの知恵くらべ ～

今回紹介する資料を使って答えを探してみましょう!

正解は裏面の一番下。

Q1: 日本で初めて潜水版(ガリ版)
を発明したのは誰?

Q2: 日本で最長のケーブルカーは?



大切に・・・琵琶湖のある「滋賀」

『琵琶湖と自然 五訂版』 滋賀県教育委員会編 2005年 [SB-4080-05]

琵琶湖の生い立ちから、地質、気象、生態系、琵琶湖と人々とのかかわり、環境問題、世界湖沼会議をはじめとする、世界への貢献まで、カラー図版・データ豊富な一冊。資料編として、土地利用の変化比較図、プランクトン・魚類・水草の写真一覧、地震動予測図、「滋賀県環境学習の推進に関する条例」、参考文献・引用文献・ホームページを掲載。

『知ってますかこの湖を - びわ湖を語る 50章』 琵琶湖百科編集委員会編 サンライズ出版

2001年 [S-4580-01] 「県民必携の書」をめざして出版されたいわば琵琶湖百科。各章の執筆はそれぞれちがった角度から琵琶湖を研究している専門家であり、研究データや経験に基づきながらも琵琶湖をめぐる具体的なトピックスをとりあげており、琵琶湖に関する問題点をつかむ糸口がみつかる。資料編として、年表「琵琶湖をめぐる主な出来事」、主要参考文献、関連文献が巻末にある。

『湖国びわ湖の魚たち 増補改訂版』 滋賀県立琵琶湖文化館編 第一法規 1991年 [S-4880-91]

琵琶湖産魚類のすべてを網羅した「読む図鑑」。個々の魚について、カラー写真、和名、学名、形態、生態、分布、が記載され、本文には見分け方、その魚についての逸話・伝説にも触れられている。

『近江の川』 近江地方史研究会・木村至宏編 東方出版 1993年 [S-5180-93]

琵琶湖に流れる大小約460の河川網のうち30の川について、それぞれの川にまつわる歴史、地形的な特徴を解説。巻末の索引の項目として、県内の自然地名(川・谷・滝・山)、人文地名(街道・池・ダム・橋・港)などを中心に挙げており、参考文献のほか、略地図、「近江の川」歴史略年表、も掲載。

ご自慢! 「滋賀」のお宝

『滋賀県文化財地図』 滋賀県教育委員会文化財保護課編 1998年 [5B-7000-98]

滋賀県下における文化財保護法にもとづいて国が指定(または選択、選定、認定)した文化財、滋賀県文化財保護条例にもとづいて滋賀県が指定(同左)した文化財を収録。詳細な地図上に文化財の種別が記号で記されており、併記数字によって巻末の滋賀県文化財目録を参照することができる。巻末目録では、種別、指定年月日、名称、所有者・所在地、時代・年代が地域別に分かる。データは平成10年3月31日現在。遺跡については、

『滋賀県遺跡地図 平成13年度』 滋賀県教育委員会文化財保護課編 2002年 [SB-2200-01]がある。

『滋賀県伝統的工芸品 第5版』 滋賀県商工労働部商工観光政策課編 2003年 [S-6000-03]

「県知事指定滋賀県伝統的工芸品」「経済産業大臣指定伝統的工芸品」に指定されている工芸品43件について、それぞれの沿革・特徴と製造工程を解説し、伝統的工芸品マップ、伝統工芸士一覧も掲載。また、貴重書として、明治6年に出された『滋賀県管下 近江国六郡物産図説』 滋賀県勤業課 1873年 [S-6000-2~4] (写真複製本)がある。

『湖国百選 庭』 滋賀県総合研究所編 1992年 [S-6200-92]

県内の寺院・神社・会社・個人の日本庭園を地域別に100件とりあげている。それぞれの写真、解説とともに巻末の一覧では、名称、様式、作庭時期、所在地がわかる。

『仏像集成4 日本の仏像<滋賀>』 久野健編 学生社 1987年 [S-7100-87]

仏像彫刻、肖像、神像、狛犬を対象として、地域別に401件を収録。それぞれについて、写真、尊名、所有者、材質、法量、解説が記され、巻末には所蔵者の所在地と所有者別尊名索引がある。また、『近江路の彫像』 宇野茂樹著 雄山閣 1974年 [S-7100-74]では時代ごとにとりあげている。豊富な解説に加え、巻末には「近江の在銘像」を掲載。仮面彫刻も対象としている。

歴史舞台「近江」と「功名が辻」

ただいま滋賀県内では、司馬遼太郎原作の大河ドラマ「功名が辻」の合戦シーンのロケが行われています。これは秀吉に従った山内一豊と、その妻千代の物語で、一豊も千代も近江とは深いかかわりを持っています。

一豊は秀吉から、近江国唐国(現虎姫町)、長浜に領土を与えられており、賤ヶ岳の戦にも参加しています。琵琶湖の北部でくりひろげられたこの合戦については『戦国合戦絵屏風集成第二巻 賤ヶ岳合戦図 小牧長久手合戦図』 中央公論社 [SB-7260-88]が参考になります。また、『郷土歴史人物事典滋賀』 渡辺守順著 [S-2800-79]では「山内一豊の妻」について、一豊母子・千代と近江とのかかわりや、エピソードが書かれていますが、悲しいことに、二人はその娘、与称姫を1585年長浜大地震で亡くしました。

滋賀県には多くの古戦場があり、数々の歴史舞台となってきました。『近江の古戦場』 滋賀県立図書館製作 [S-3900] は、新聞連載を複製製本したもので、戦の場としての近江を知ることができます。この機会にぜひどうぞ。